

第2章 総社市における地域・交通特性の整理

1. 地域特性

1-1. 位置及び地勢

本市は岡山県の中南部に位置し、周囲は山地に囲まれ、山地から流れる大小の河川と広い平野を擁する都市です。

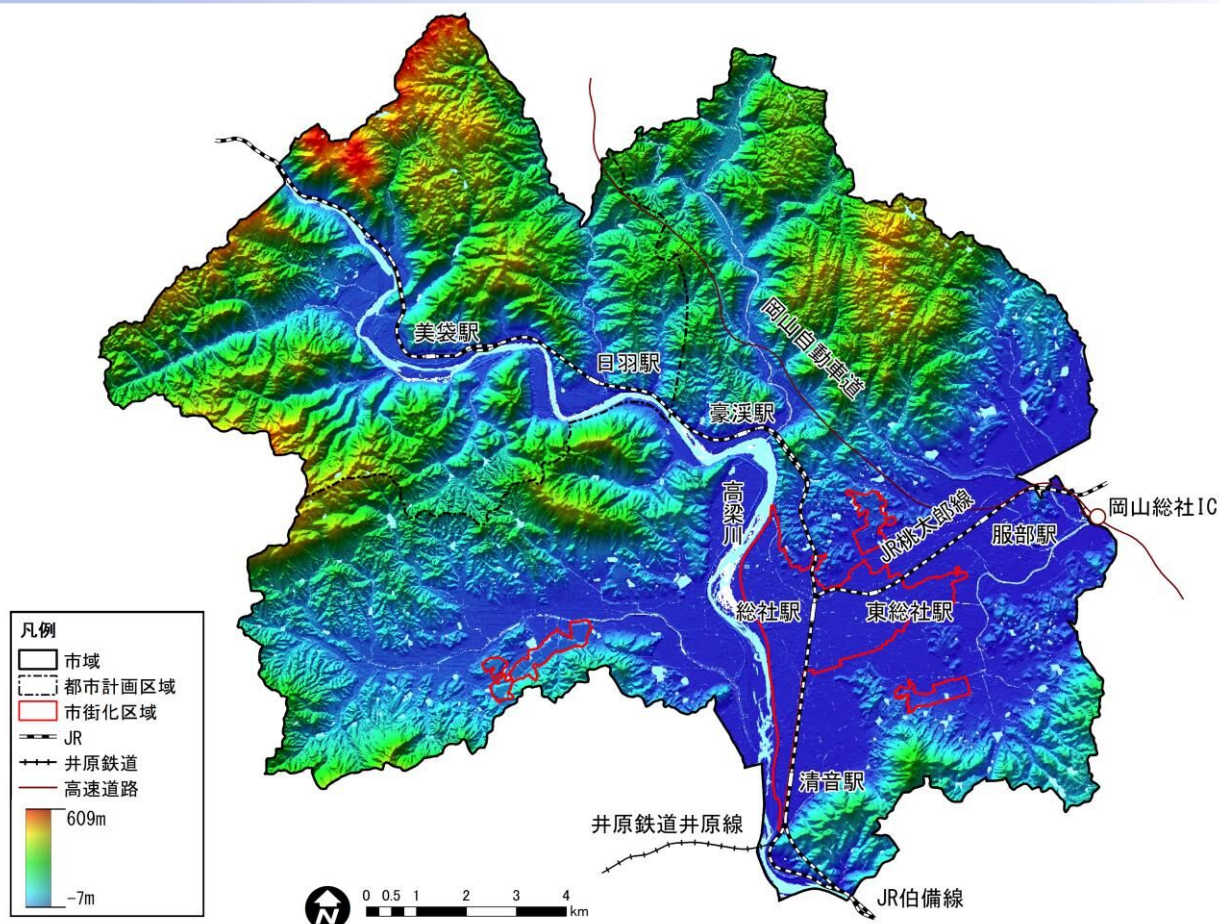
県下三大河川のひとつ高梁川は市の中央部を流れ、西部の新本川、北部の楨谷川がそれぞれ高梁川に注いでいます。東部の前川、砂川等の中小河川は、足守川(岡山市)に注いでいます。西部、北部は、大部分が標高300~500mの山地で占められており、急傾斜地等が多くみられます。

南東部には平野が広がり、JR 総社駅周辺には市街地が形成されています。また、岡山自動車道岡山総社ICは、東部の岡山市との境界に位置しており、広域的な交通のアクセスが良好な立地環境となっています。

図 総社市の位置



図 総社市の地形



出典：基盤地図情報数値標高モデル（2025年6月）を加工して作成

1-2. 人口集中地区の動向

人口集中地区（DID, Densely Inhabited District）は、人口が集中している地域を抽出するものとして、国勢調査区（基礎単位地区）において、人口密度が40人/ha以上の調査区が隣接して5,000人以上を有する地域を示します。

本市の人口集中地区（以下、DID）は、昭和40年（1965）国勢調査において1.00km²が設定されて以降、拡大を続け、令和2年（2020）には4.88km²となり、これは市全域の約2%に相当します。

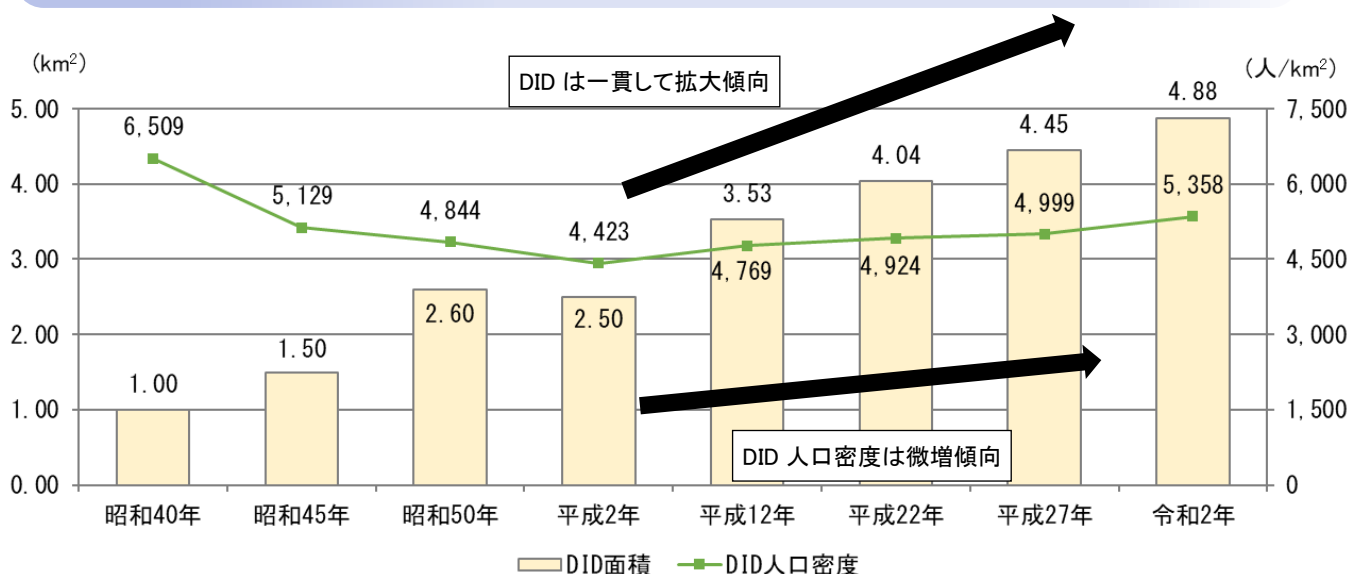
また、DID人口密度の推移をみると、昭和40年の約6,500人/km²以降、一貫して減少傾向が続いていましたが、平成2年（1990）（約4,400人/km²）以降は増加に転じ、令和2年には約5,400人/km²にまで増加しています。

表 人口集中地区（DID）

調査年	DID人口(人)	DID面積(km ²)	DID人口密度(人/km ²)	市全域に占める人口集中地区の面積割合(%)
昭和40年	6,509	1.00	6,509	0.8
昭和45年	7,694	1.50	5,129	1.2
昭和50年	12,594	2.60	4,844	1.3
平成2年	11,057	2.50	4,423	1.3
平成12年	16,835	3.53	4,769	1.8
平成22年	19,893	4.04	4,924	1.9
平成27年	22,245	4.45	4,999	2.1
令和2年	26,147	4.88	5,358	2.3

出典：国勢調査，国土数値情報[人口集中地区]

図 人口集中地区（DID）面積及び人口密度の推移（昭和40年（1965）～令和2年（2020））



出典：国勢調査，国土数値情報[人口集中地区]

1-3. 人口動向

1-3-1. 人口推移

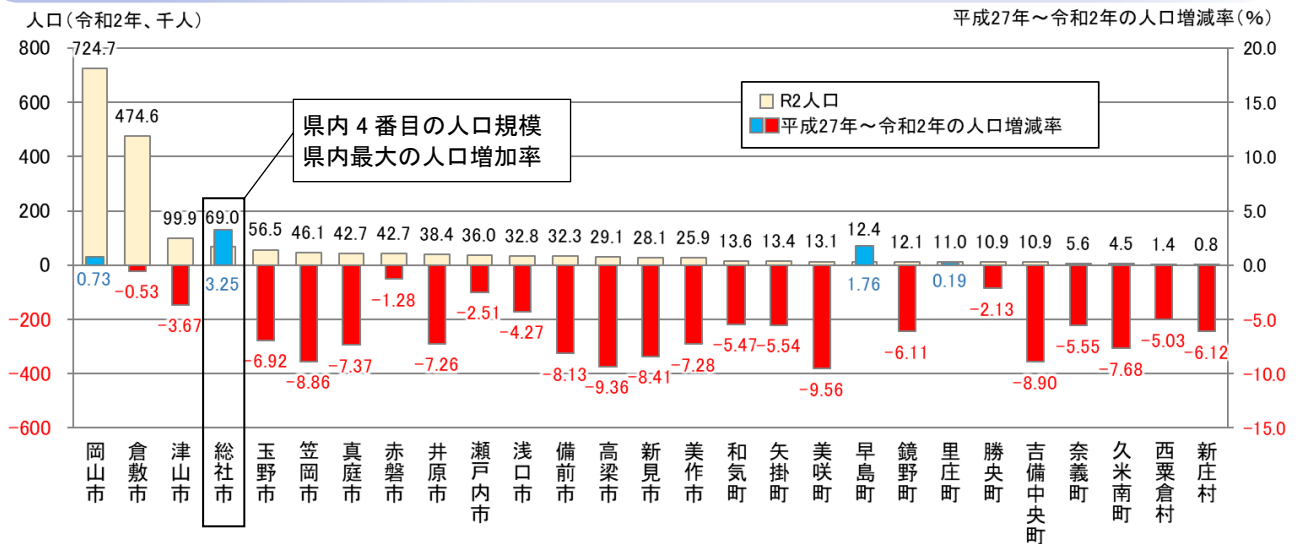
■ 現状

国勢調査における本市の人口は令和2年（2020）時点で69,030人であり、県内4番目の規模となっています。また平成27年（2015）からの変化をみると、人口増の傾向を示すのは総社市のほか、岡山市、早島町、里庄町のみとなっています。平成27年から令和2年までの増減率は3.25%増となり、これは県内で最も高い水準となっています。人口推移は、昭和55年（1980）以降、平成7年（1995）まで増加していましたが、平成12年（2000）以降はほぼ横ばいから微増で推移しています。

■ 将来

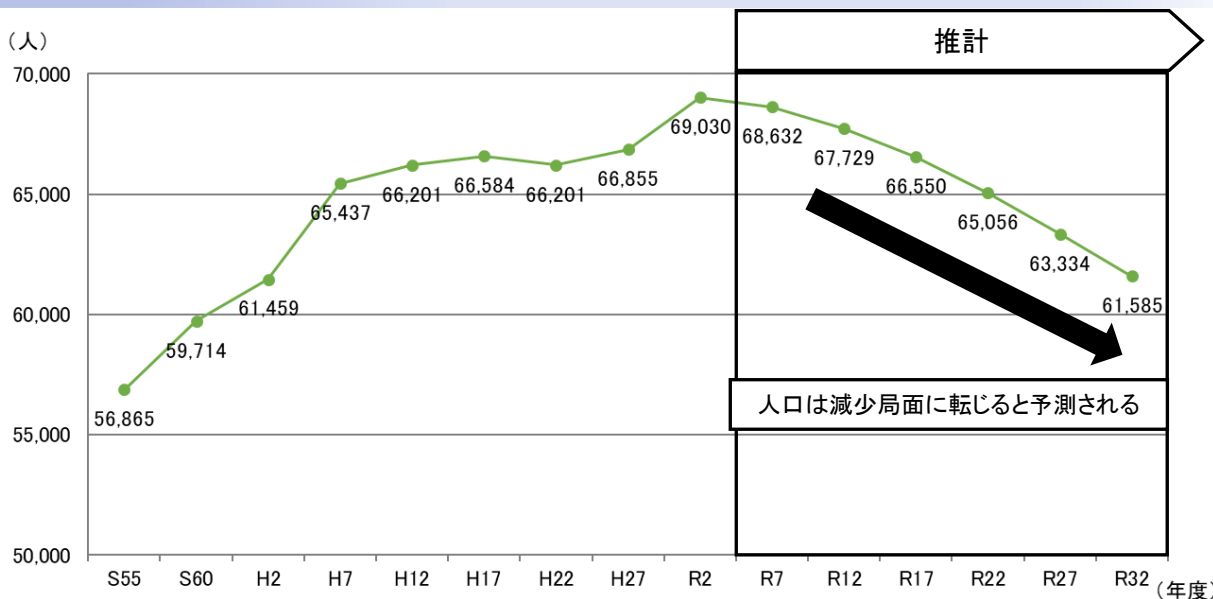
国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、自然減（死亡者数が出生数を上回る状態）の拡大や市への転入者の減少を背景として、人口は今後減少に転じ、令和32年（2050）には61,585人まで減少すると予測されています。（将来的な人口の推移として、令和32年を見据えます。）

図 県内市町村の人口（令和2年（2020））



出典：令和2年国勢調査

図 人口の推移



出典：昭和55年～令和2年：国勢調査，令和7年～令和32年：国立社会保障・人口問題研究所推計値

1-3-2. 人口分布

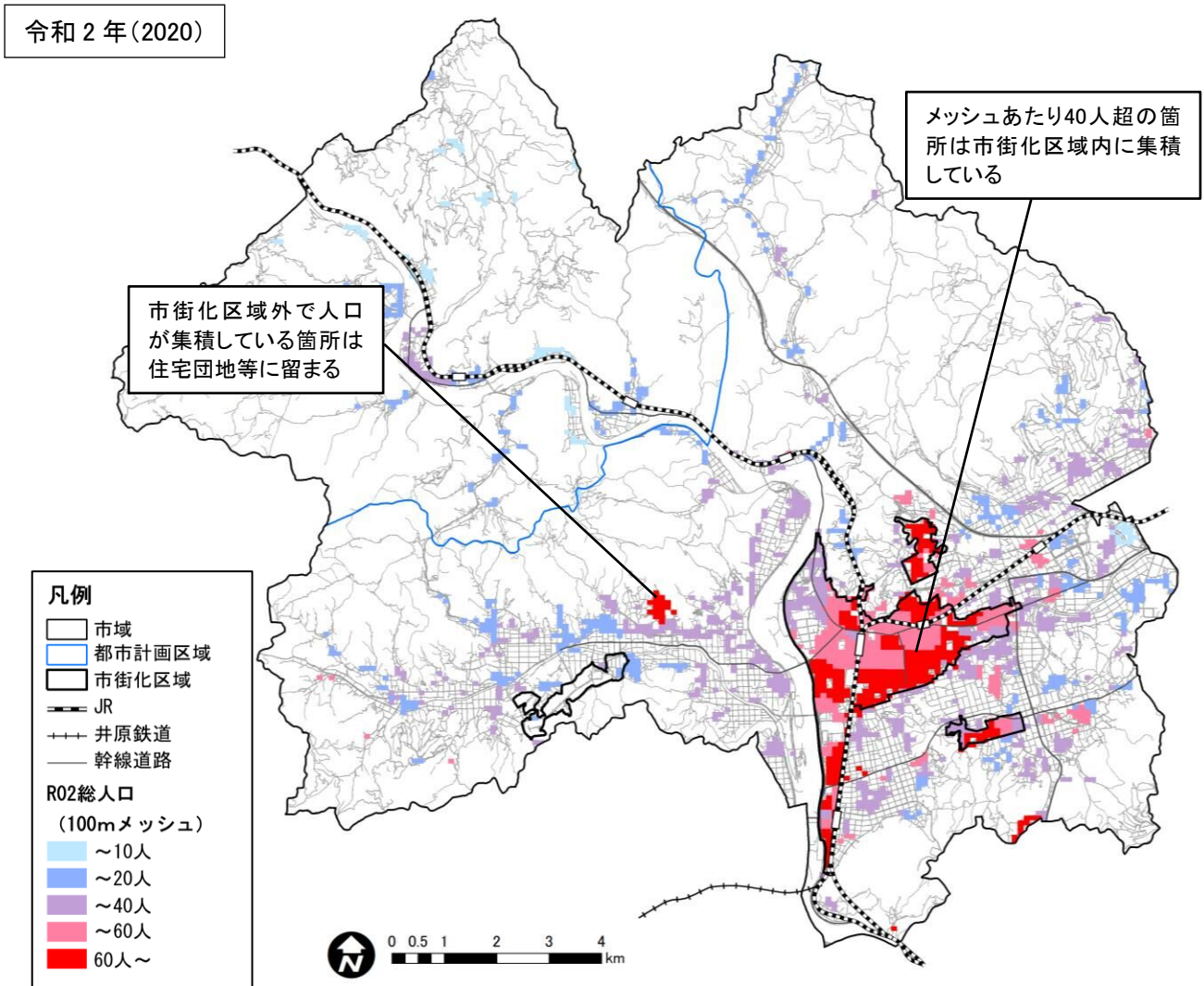
(1) 現況人口分布

国勢調査によるメッシュ（100m）ごとの人口の状況を以下に示します。

令和2年（2020）の人口密度の状況を見ると、メッシュあたり40人超の箇所の多くが市街化区域内に所在しており、特に60人超の箇所は、JR 総社駅から JR 東総社駅にかけての一带や泉地区に集積しています。

一方、市街化調整区域及び都市計画区域外では、あおいハイツ（久代地区）や泉北ニュータウン（福井地区）、三須桃山団地（三須地区）など一部の住宅団地を除いて、40人以下の箇所が広がります。

図 メッシュあたり人口の分布状況（令和2年（2020））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
※人口は令和2年国勢調査に基づく

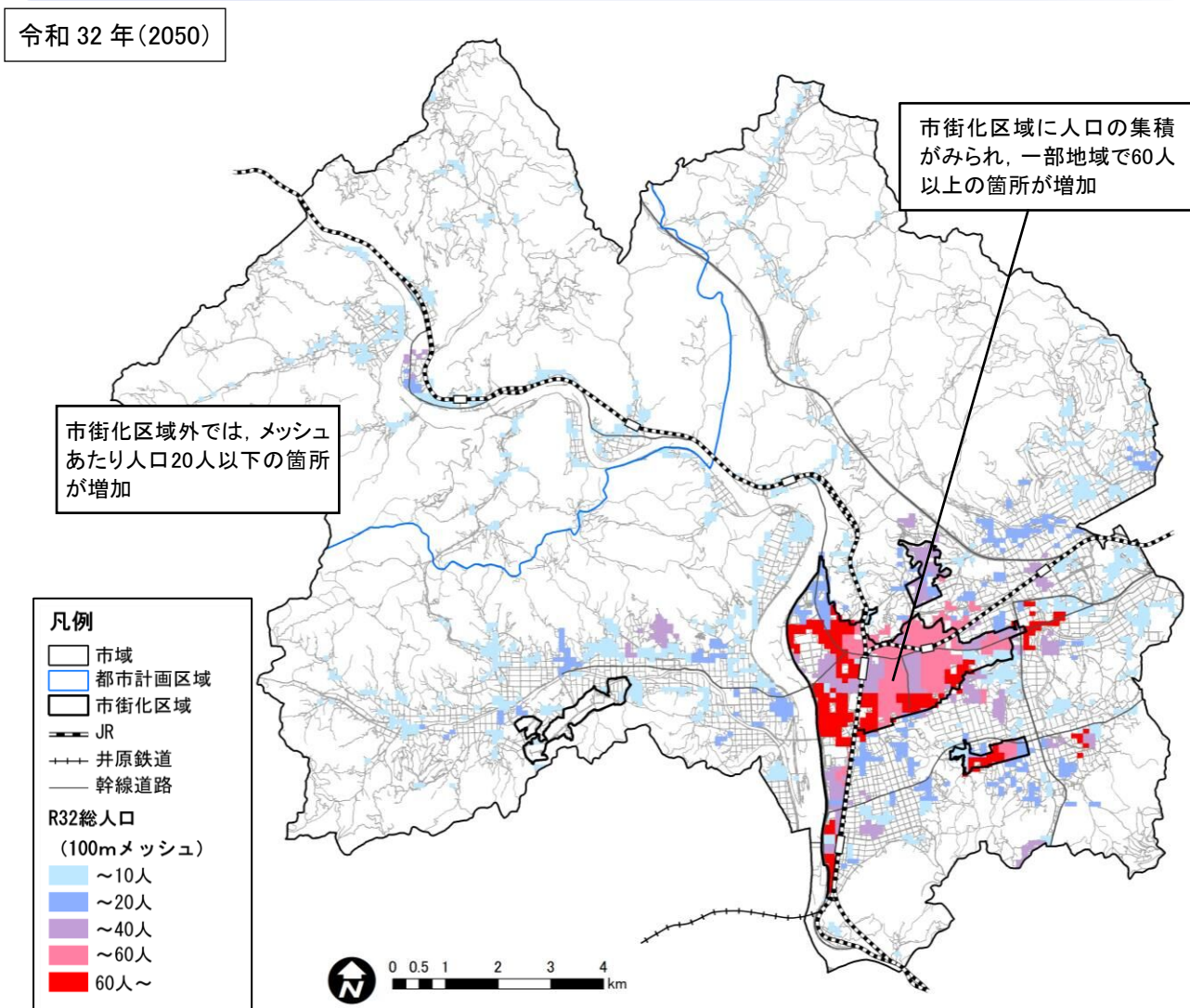
(2) 将来人口分布

将来人口推計によるメッシュ（100m）ごとの人口の状況を以下に示します。

市街化区域内を中心とした人口の集積は、令和32年（2050）においても同様の傾向が示され、市全体では人口の減少が進みますが、市街化区域内の JR 総社駅南側一帯ではメッシュあたり60人超の箇所が増加することが予測されます。

市街化調整区域及び都市計画区域外は、特に人口の減少傾向が顕著にみられ、人口が維持されるのはあおいハイツ（久代地区）など一部の住宅団地に留まり、多くが20人以下となることが予測されます。

図 メッシュあたり人口の分布状況（令和32年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
※人口は社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

1-3-3. 人口構造

(1) 年齢3区分

年齢3区分別人口構成比は、令和2年（2020）時点で年少人口率（0～14歳人口の割合）は13.9%と県平均（12.4%）を上回っており、県下でも3番目に高い割合となっています。また、高齢化率（65歳以上人口の割合）は28.3%と県平均（30.3%）を下回っており、県下でも岡山市、早島町に次ぐ低い割合となっており、年少人口及び生産年齢人口（15～64歳人口）が比較的維持された、県内市町村と比して若い世代が中心となっているまちといえます。

しかしながら、過去からの推移をみると、平成7年（1995）以降、年少人口率及び生産年齢人口率が一貫して減少する一方、高齢化率（65歳以上人口の割合）は増加の傾向が続いています。また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、今後もこの傾向は続くものと予測され、令和32年（2050）には、年少人口率は11.9%に減少、高齢化率は34.6%に増加しており、少子高齢化が大きく進展するものと考えられます。

図 県内市町村 年少人口率（令和2年（2020））

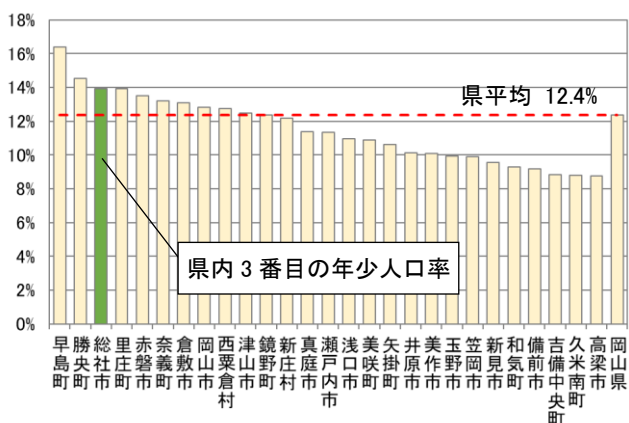
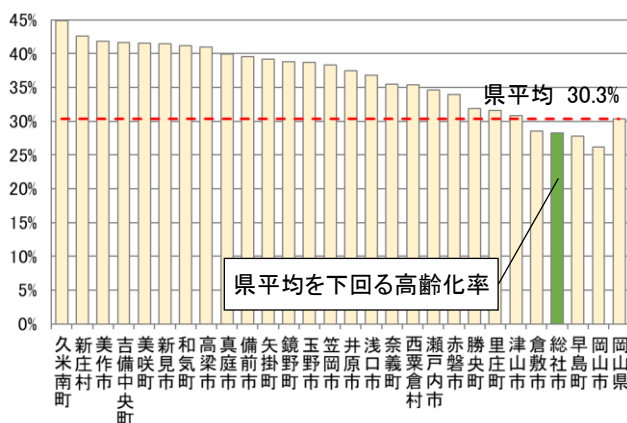
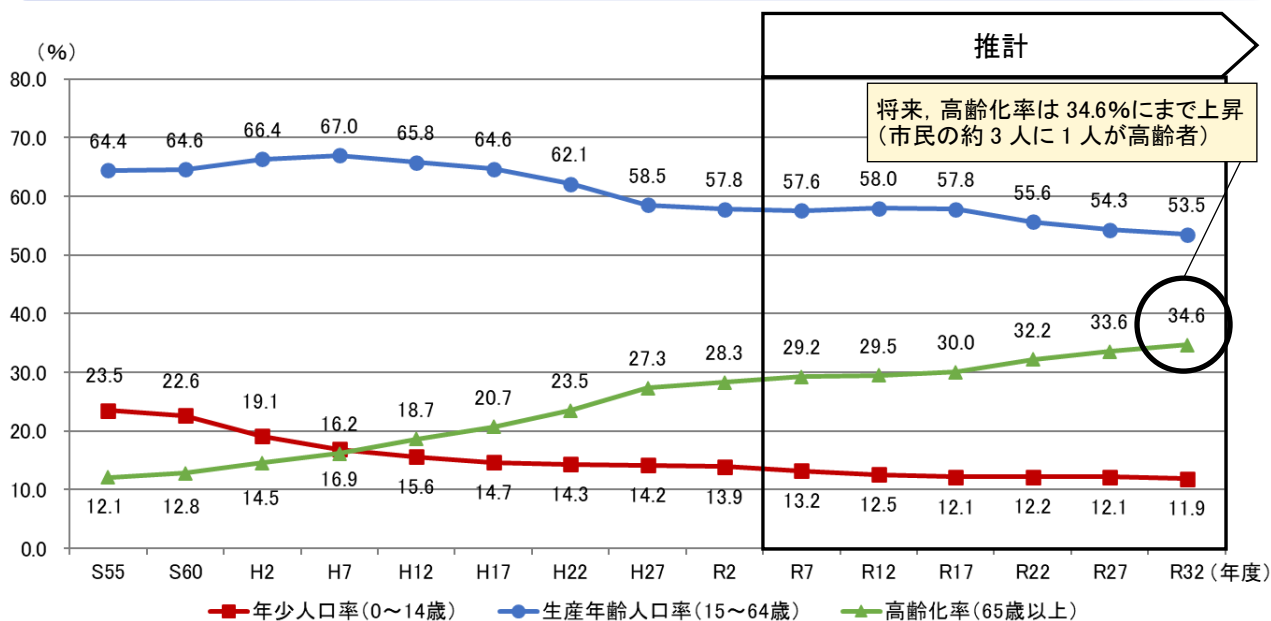


図 県内市町村 高齢化率（令和2年（2020））



出典：令和2年国勢調査

図 年齢別人口構成比の推移



出典：昭和55年～令和2年：国勢調査，令和7年～令和32年：国立社会保障・人口問題研究所推計値

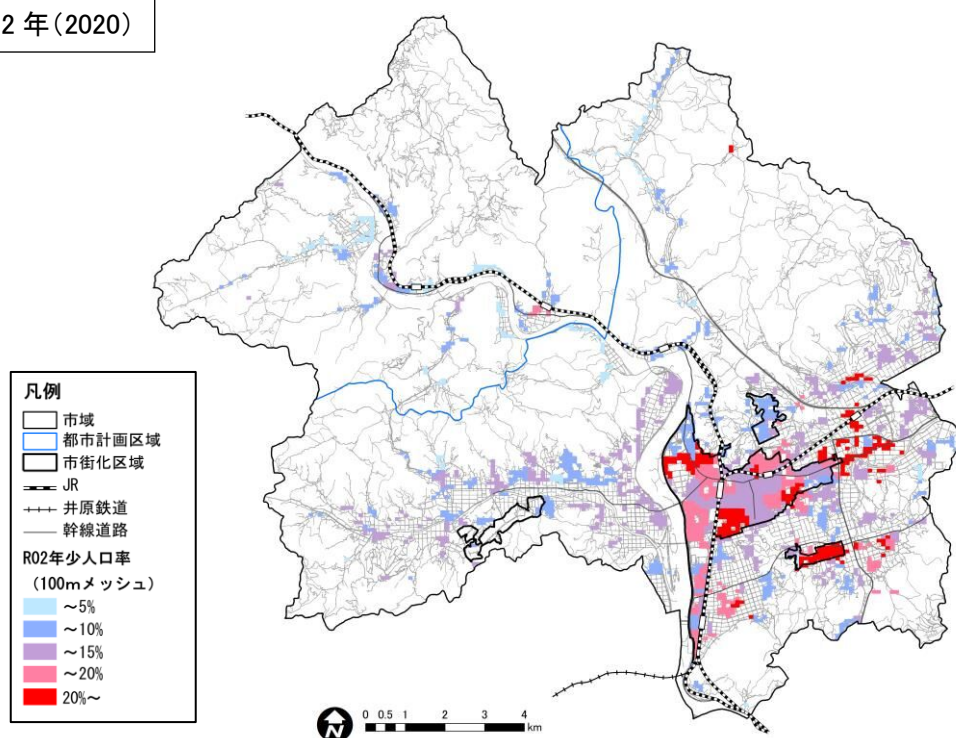
(2) メッシュあたり年少人口率の変化

メッシュ（100m）あたり年少人口率の分布状況をみると、令和2年（2020）では市街化区域及び市南東部一帯に15%以上の箇所が広く分布していますが、令和32年（2050）には市南東部や住宅団地の一部を除き15%未満となっています。

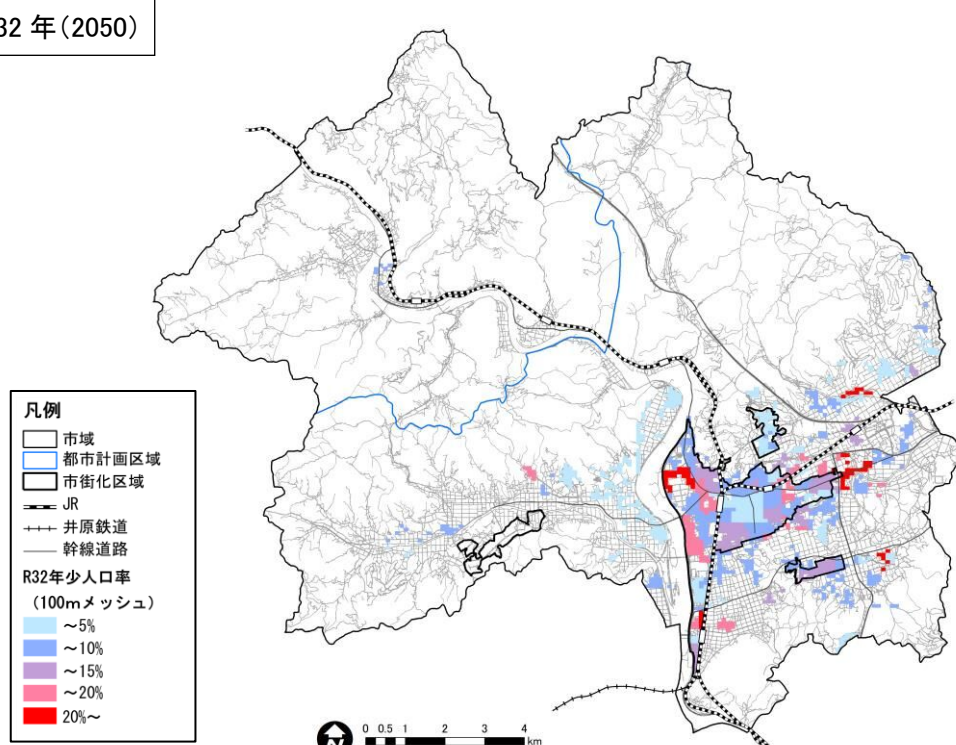
令和2年から令和32年の年少人口率増減量をみると、市街化区域のJR総社駅南側や山手地区において、年少人口率が大きく減少している箇所が分布しています。

図 年少人口率の分布（令和2年（2020）及び令和32年（2050））

令和2年(2020)

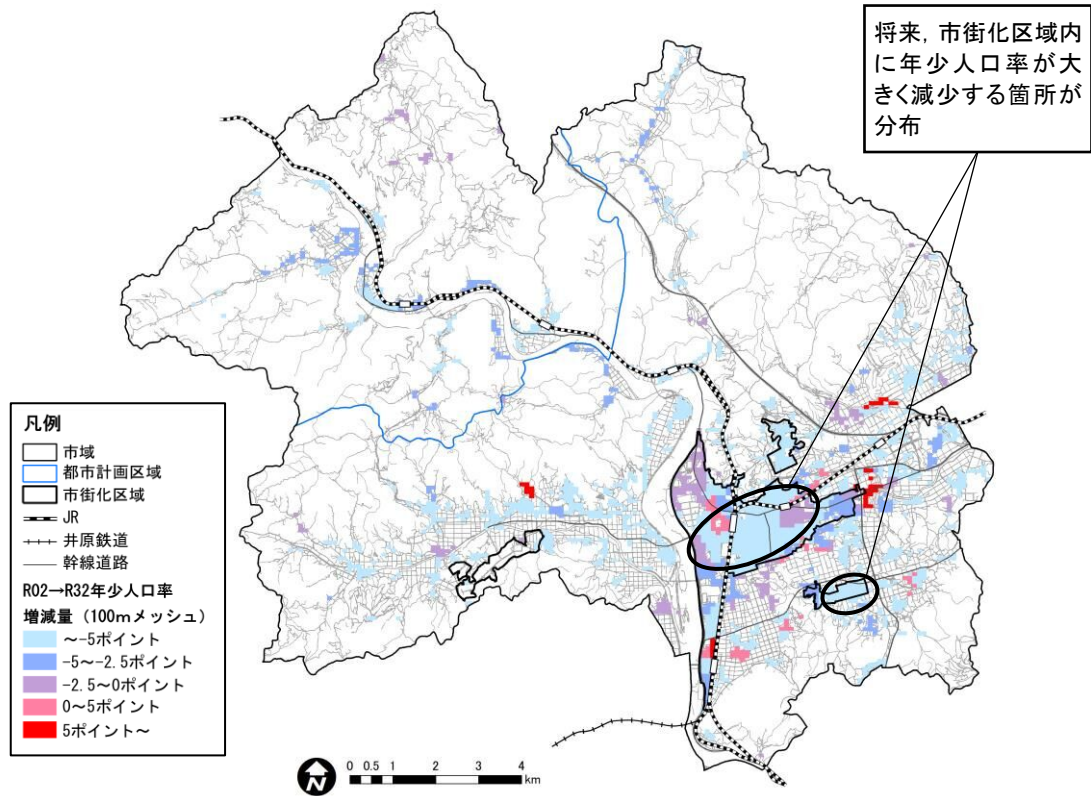


令和32年(2050)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
 令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

図 年少人口率増減量（令和2年（2020）から令和32年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

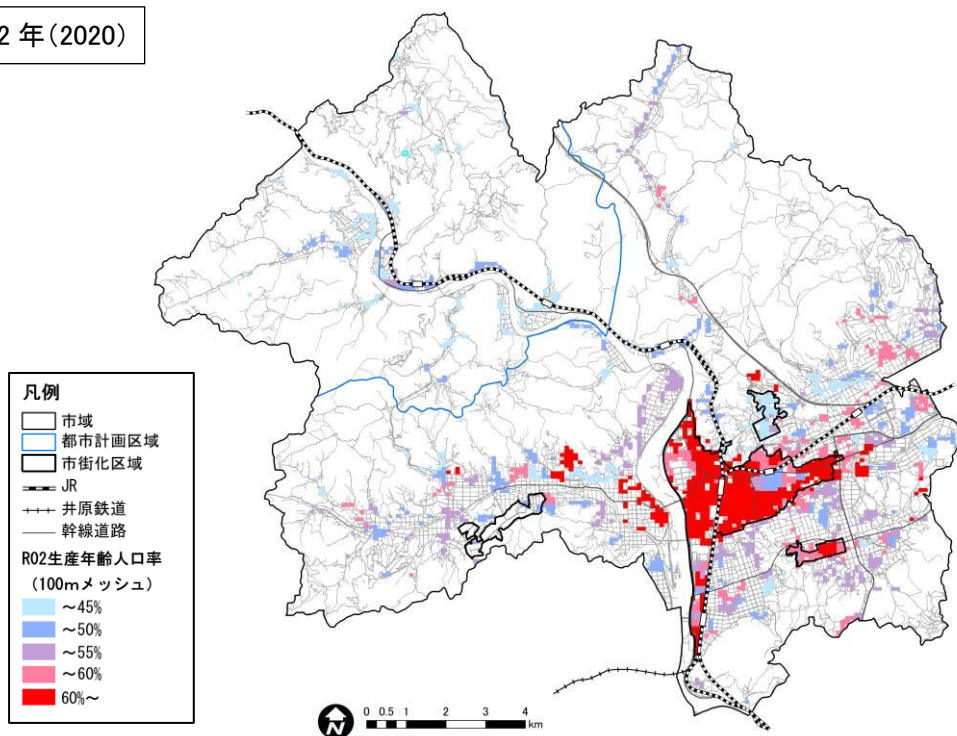
(3) メッシュあたり生産年齢人口率の変化

メッシュ（100m）あたり生産年齢人口率の分布状況をみると、令和2年では市街化区域内のみならず市東部・西部の広い範囲に60%以上の箇所が分布しますが、令和32年には市街化区域内のJR 伯備線西側、山手地区など一部を除き60%未満に減少します。

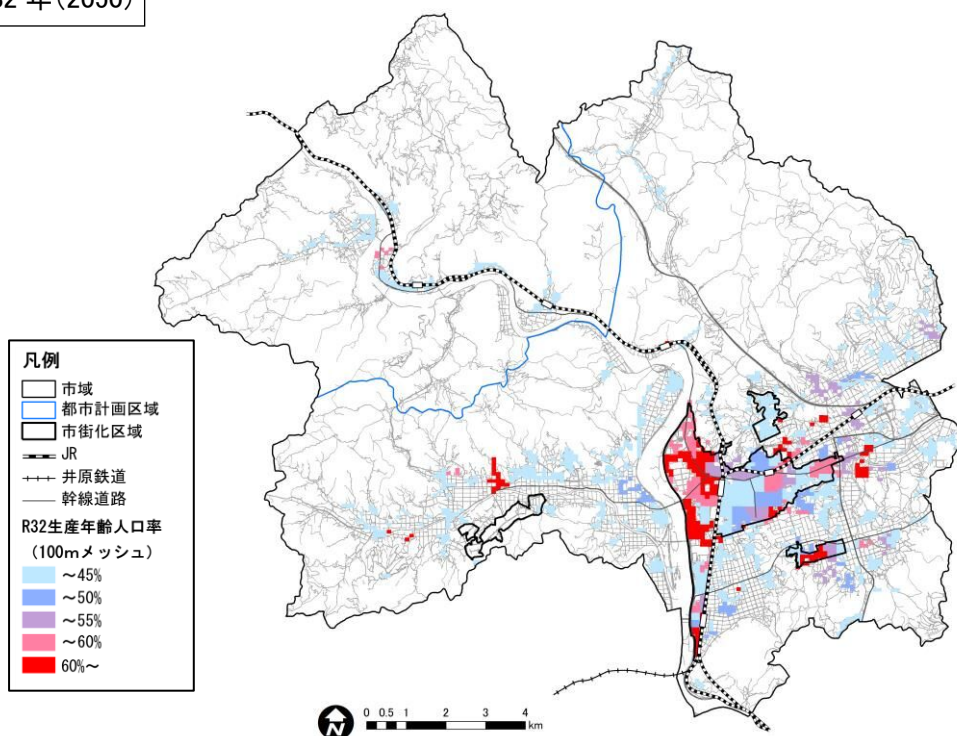
令和2年から令和32年の生産年齢人口率増減量をみると、市街化区域の内外によらず市全域で減少が予測されますが、JR 総社駅前及び山手地区において生産年齢人口率が維持される箇所が一部みられます。

図 生産年齢人口率の分布（令和2年（2020）及び令和32年（2050））

令和2年(2020)

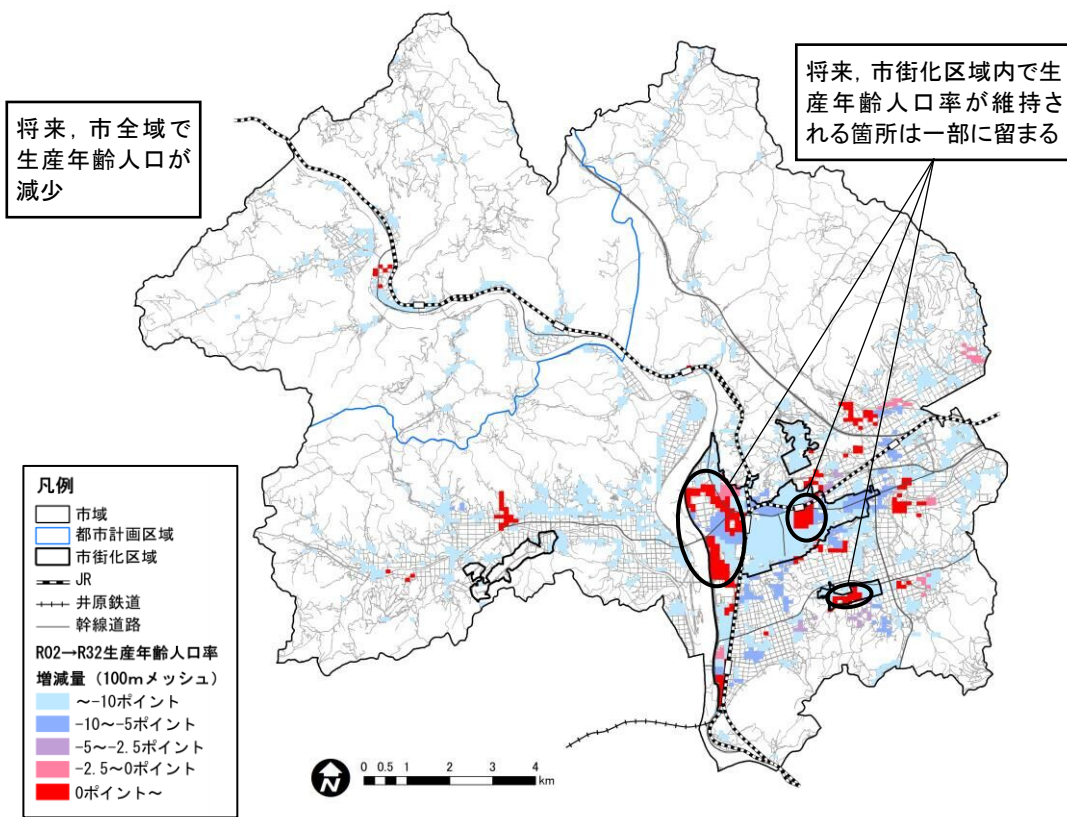


令和32年(2050)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
 令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

図 生産年齢人口率増減量（令和2年（2020）から令和32年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
 令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

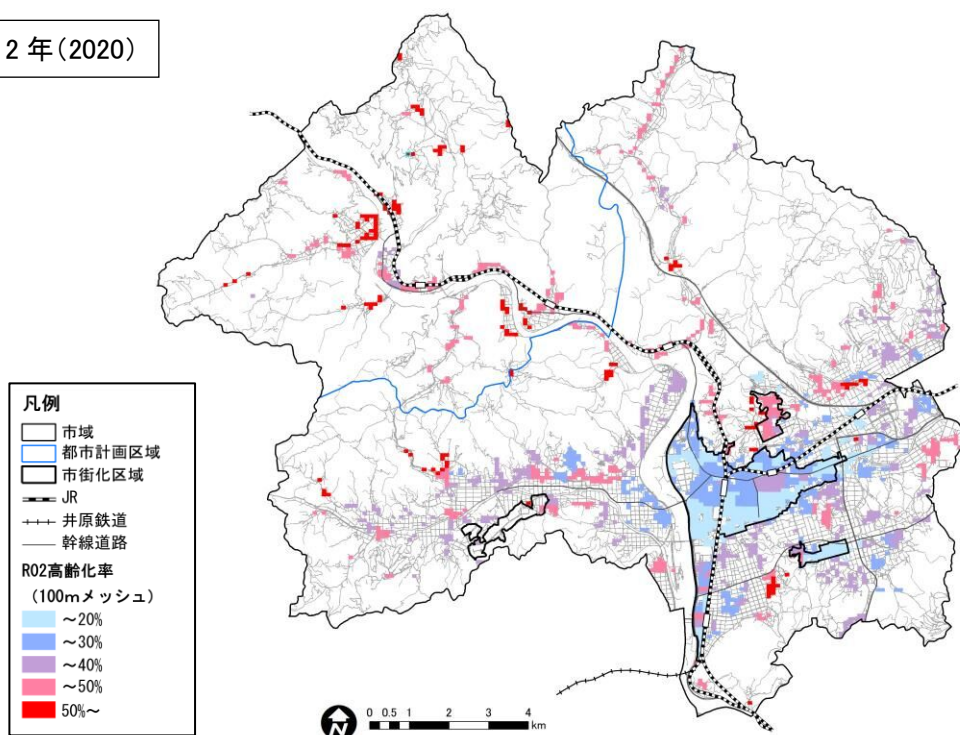
(4) メッシュあたり高齢化率の変化

メッシュ（100m）あたり高齢化率の分布状況を見ると、高齢化率が40%を越えるメッシュは、令和2年（2020）では都市計画区域外の市北部及び都市計画区域内の市西部を中心とした一部地域に限られますが、令和32年（2050）には市街化区域も含めた市全域に広がっています。

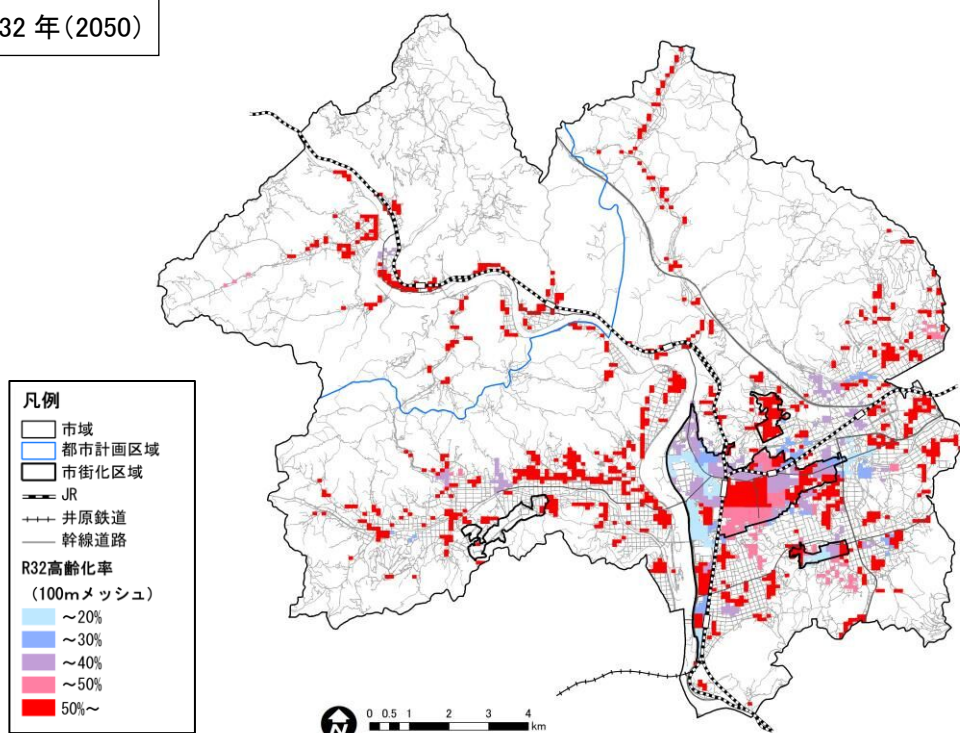
令和2年から令和32年の高齢化率増減割合をみると、市全域で10%以上の高い増加割合の箇所が分布し、市街化区域内では市街地中心部及び JR 伯備線西側、山手地区において高齢化の進展が顕著となります。

図 高齢化率の分布（令和2年（2020）及び令和32年（2050））

令和2年(2020)

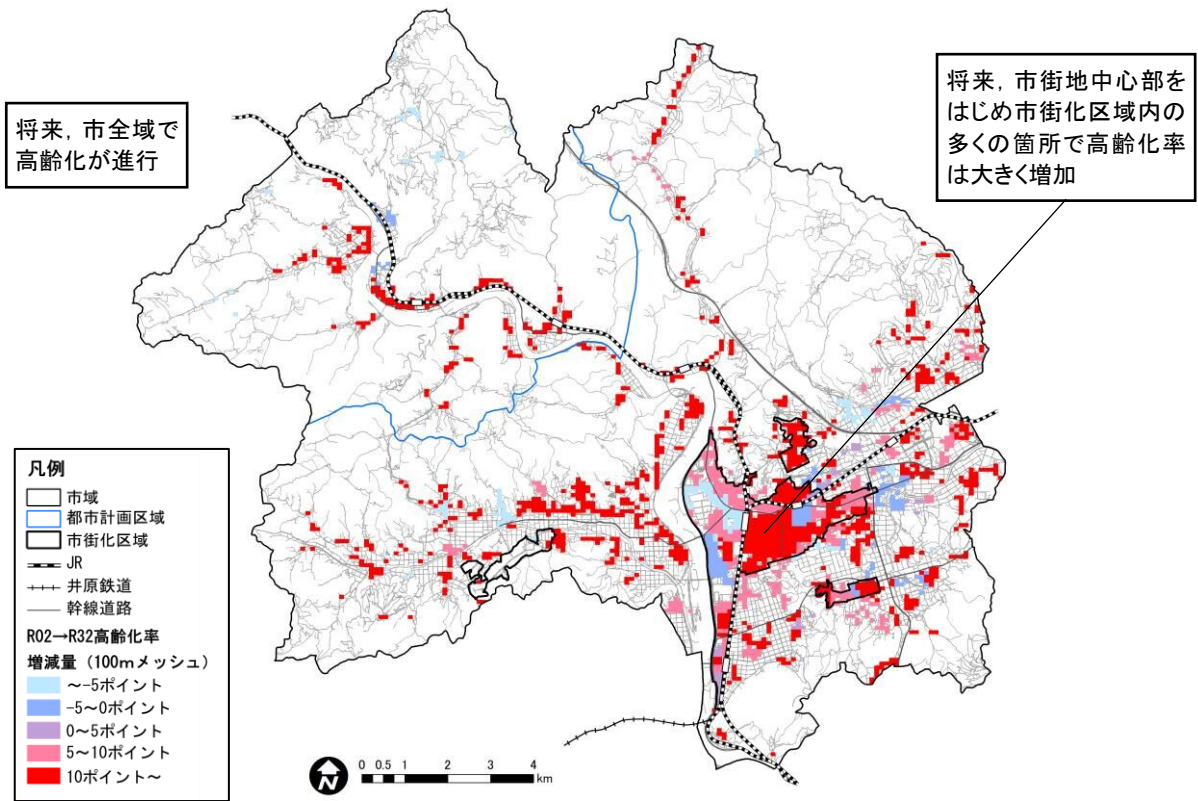


令和32年(2050)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
 令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

図 高齢化率増減量（令和2年（2020）から令和32年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

1-4. 都市施設の立地状況

市民の日常生活サービスを支える、医療、福祉、商業施設等の都市機能の状況について、施設の立地状況と利用圏域を把握します。施設の立地と利用圏域は、都市機能の集積度や不足する状況を把握するため、次頁以降に、都市機能別に図示します。都市機能の利用圏域は、都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）に基づき、半径 800m 圏と仮定します。

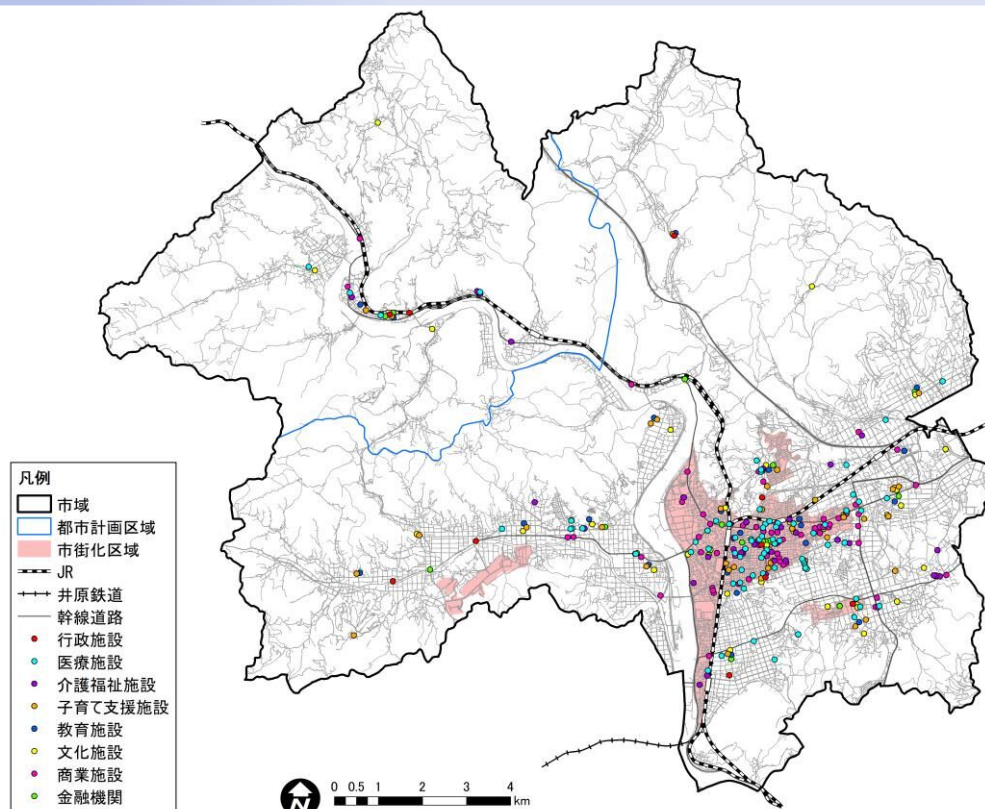
1-4-1. 都市機能の概況

本市に立地する都市機能（施設）は、322 施設あり、うち約半数の 155 施設が市街化区域内に立地しています。施設の分布をみると、分類に関わらず、その多くが JR 総社駅東側から JR 東総社駅にかけて立地しています。また、市街化調整区域では、幹線道路沿道に施設が立地する傾向がみられます。分類ごとの立地状況について、次頁以降に整理します。

表 都市機能の施設数（令和 7 年度時点）

分類	施設	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域外	合計
行政施設	市役所, 警察署, 消防署等	2	6	2	10
医療施設	病院, 診療所	41	31	4	76
介護福祉施設	訪問, 通い, 多機能等	25	22	4	51
子育て支援施設	幼稚園, 保育所, 認定こども園等	15	25	2	42
教育施設	小学校, 中学校, 高等学校, 大学	7	12	2	21
文化施設	文化施設, 交流施設, 集会施設	10	24	5	39
商業施設	ショッピングセンター, スーパー, コンビニ等	43	17	2	62
金融施設	銀行, 信用金庫, 郵便局	12	7	2	21
合計		155	144	23	322

図 都市機能（施設）の分布



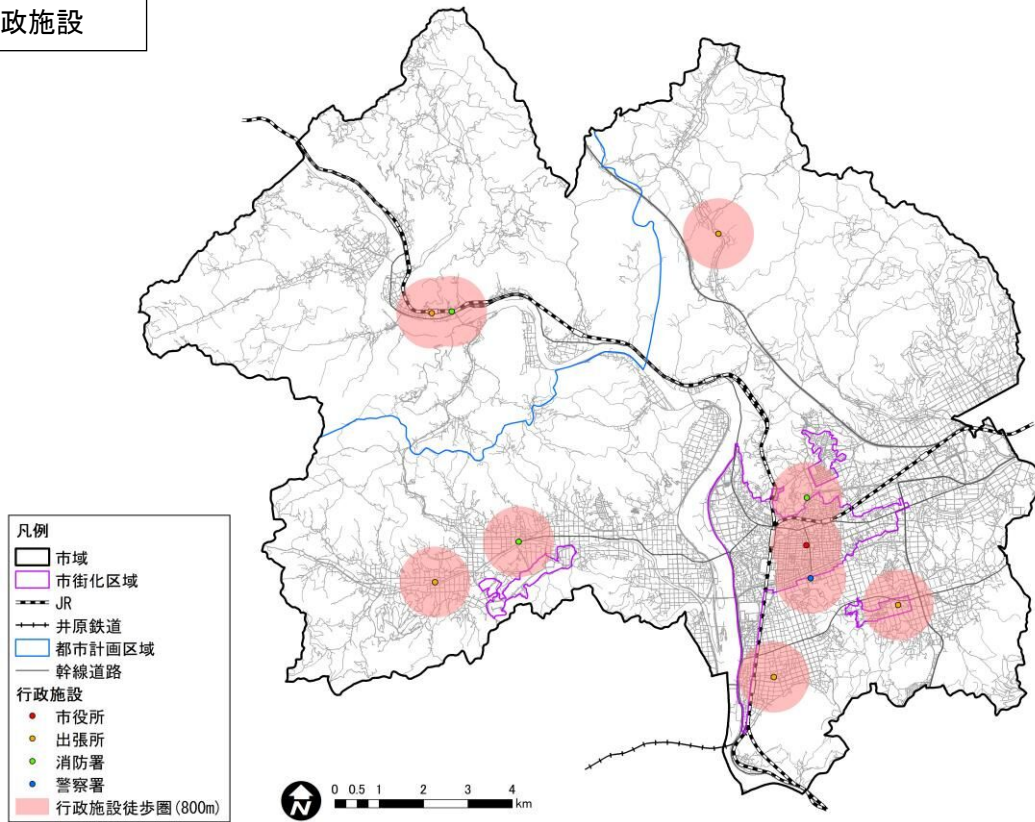
出典：おかやまオープンデータカタログ、岡山県HP、国土数値情報、介護サービス情報公表システム、iタウンページ、Googleマップ、金融機関コード・銀行コード・支店コード検索、日本郵政HP（令和7年7月）

1-4-2. 施設類型別の立地状況

施設類型別の都市施設立地状況を以下に整理します。

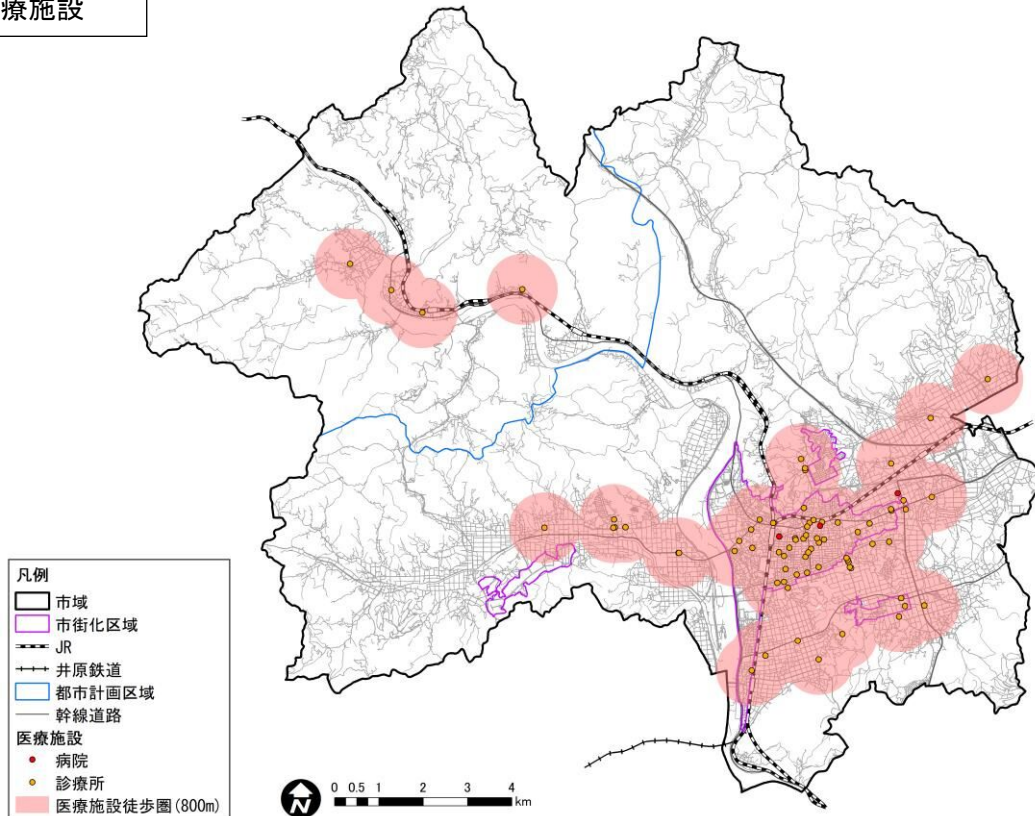
図 施設類型別の都市施設立地状況

行政施設



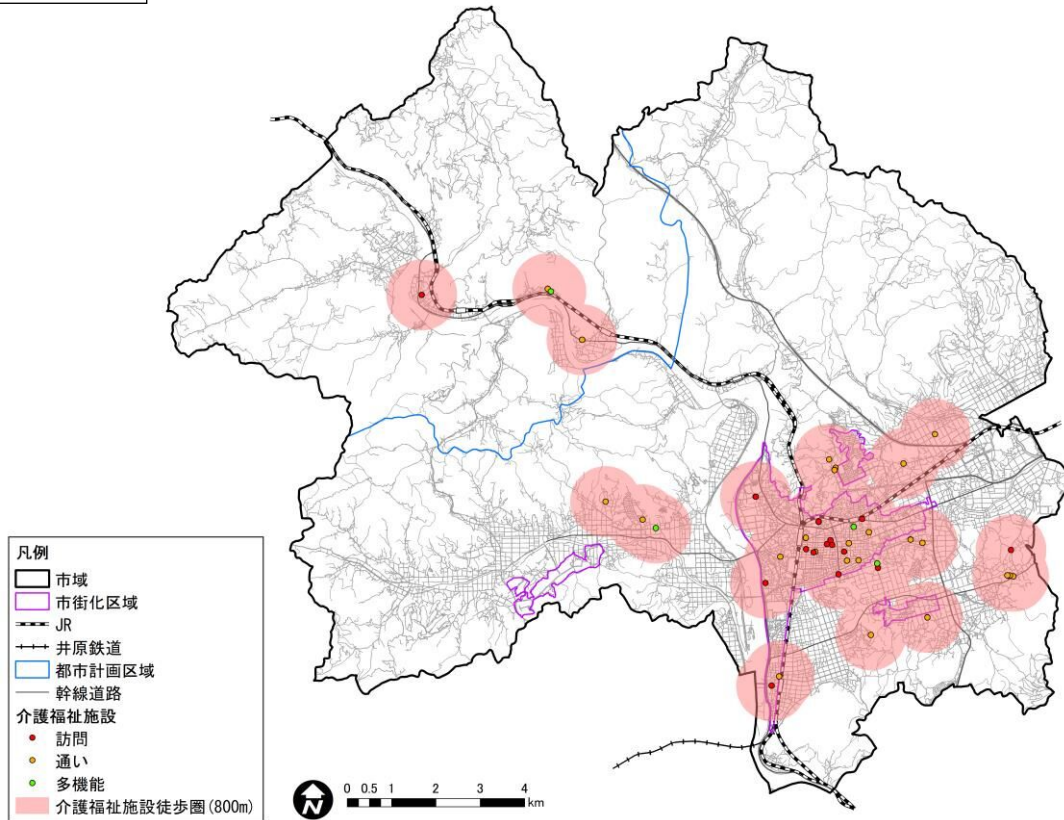
出典：総社市 HP (令和 7 年 7 月)

医療施設



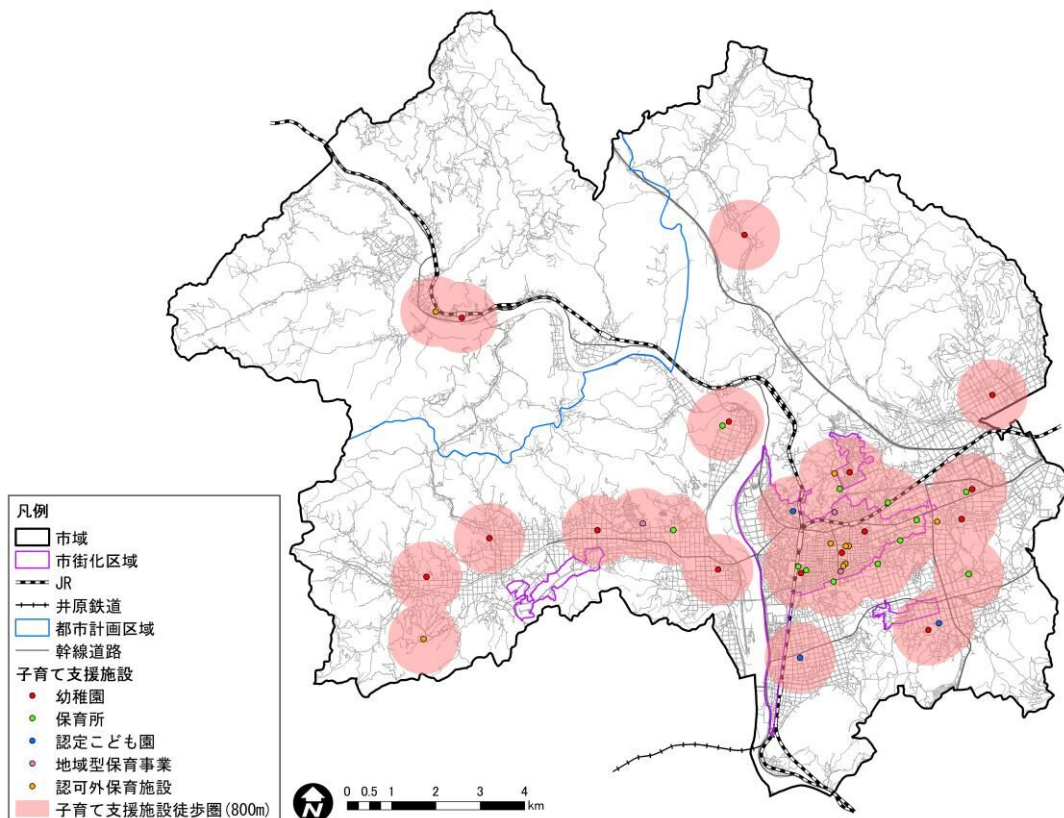
出典：地域医療情報システム (令和 7 年 7 月)

介護福祉施設



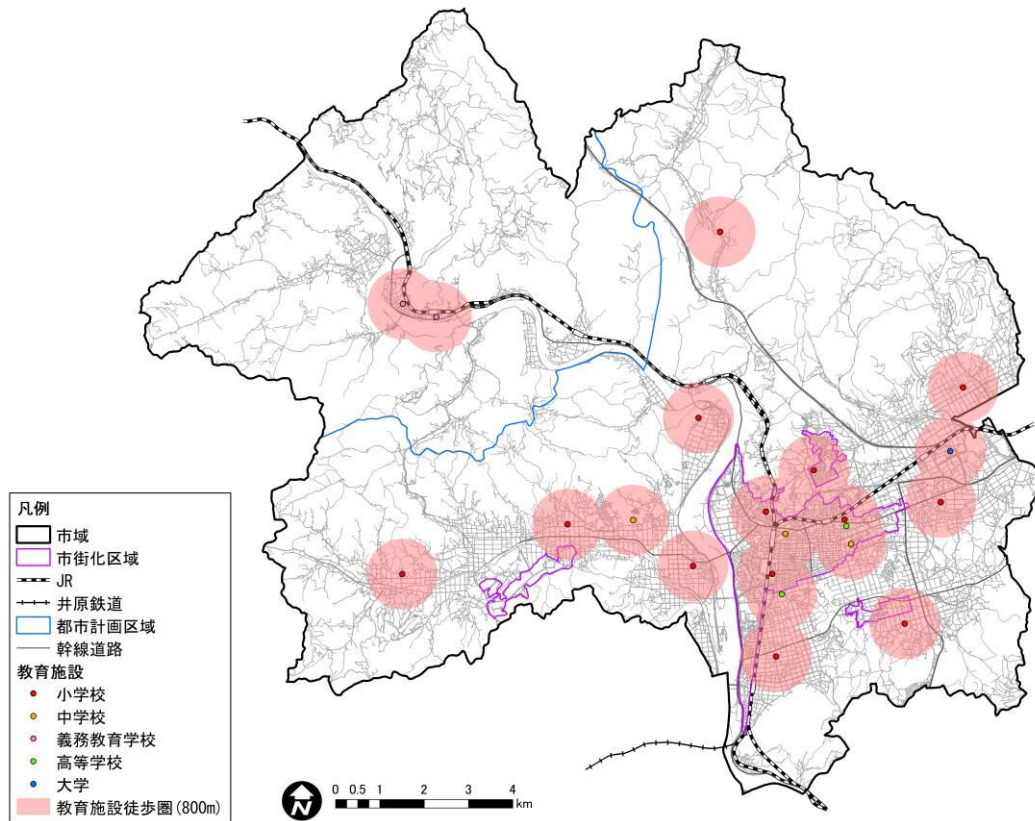
出典：介護サービス情報公表システム（通所系，訪問系，小規模多機能施設を抽出，令和7年7月）

子育て支援施設



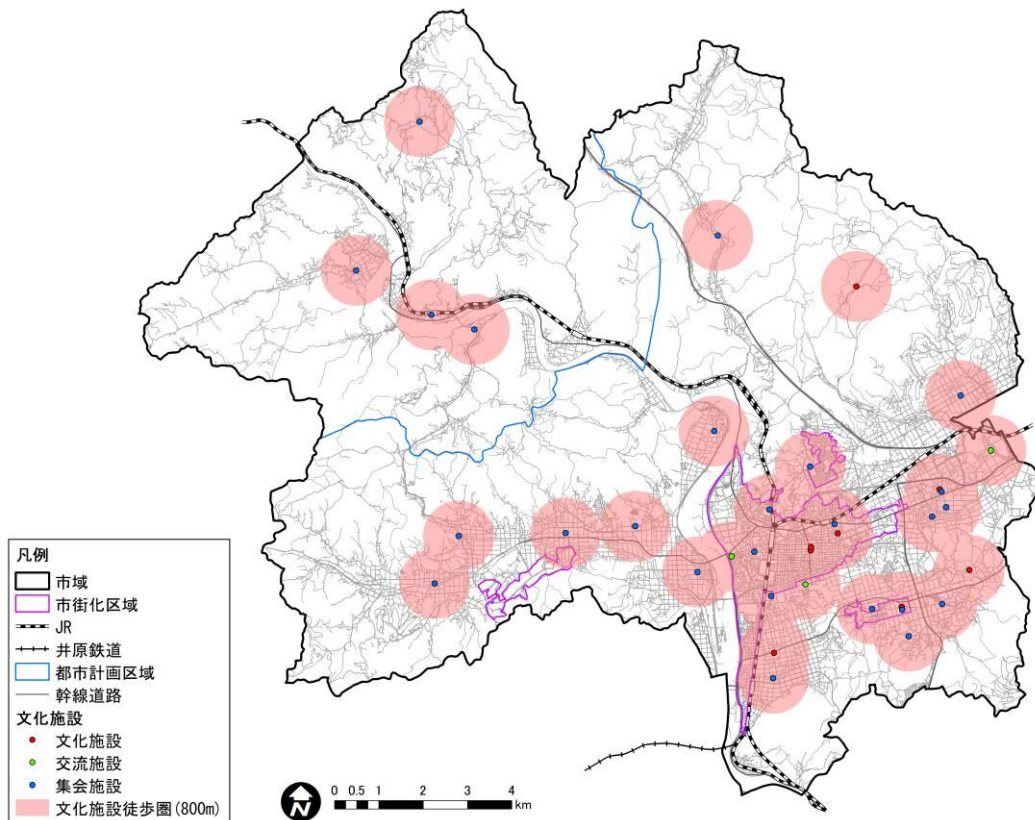
出典：総社市HP及び岡山県HP（令和7年7月）

教育施設



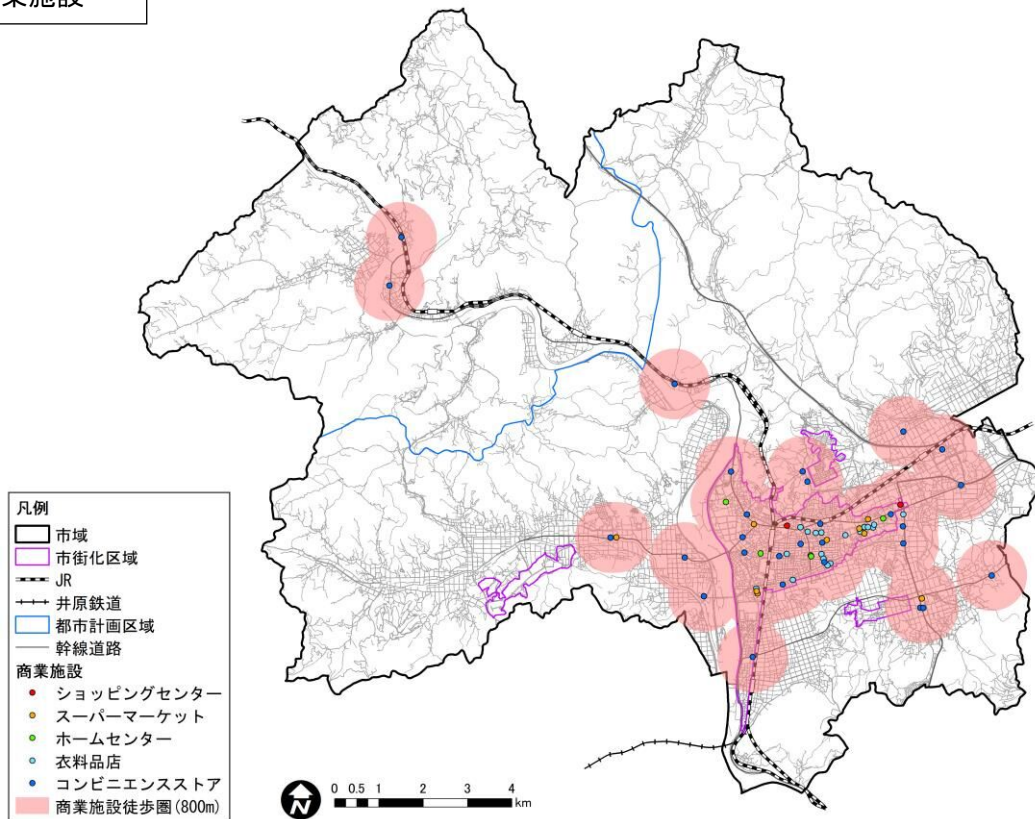
出典：総社市HP（令和7年7月）

文化施設



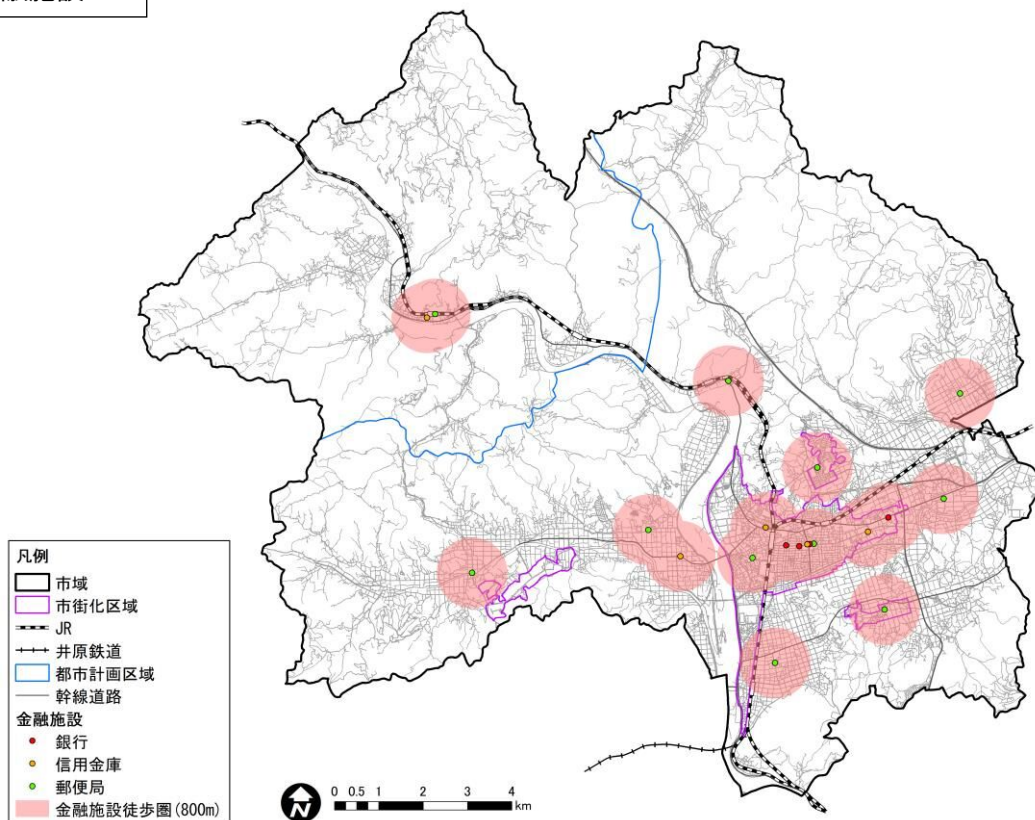
出典：総社市HP（令和7年7月）

商業施設



出典：岡山県HP, iタウンページ, Google マップ (令和7年7月)

金融施設



出典：<銀行・信用金庫>出典：金融機関コード・銀行コード・支店コード検索 (令和7年7月)
 <郵便局>出典：日本郵政HP (令和7年7月)
 ※ATMのみの施設は除く

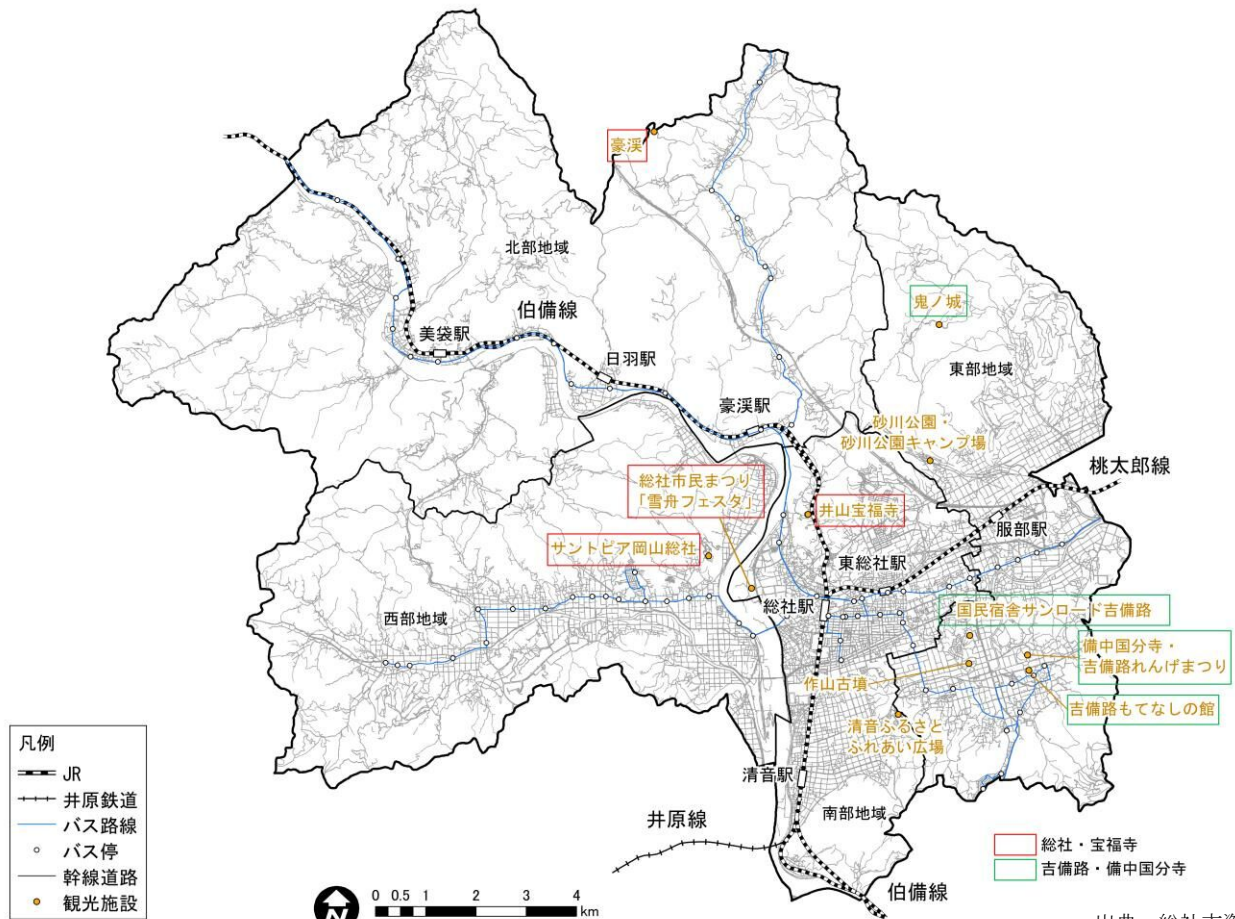
1-5. 観光動向

1-5-1. 観光施設の立地状況

市内には、井山宝福寺や備中国分寺などの観光施設が市内南東部に多く立地しています。

しかし、鉄道駅から離れた施設が多く、バス路線のネットワークや便数を考えると、公共交通でのアクセスが困難な施設が多く存在しています。

図 観光施設の立地状況

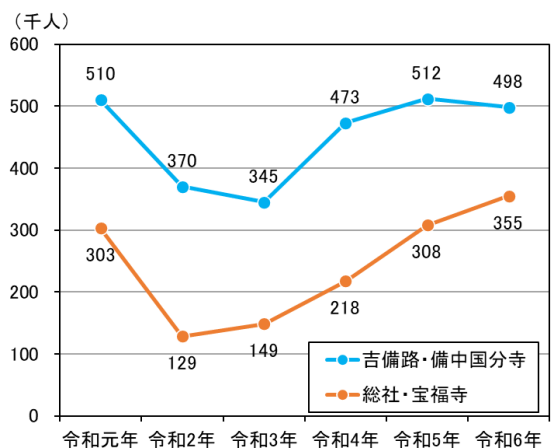


出典：総社市資料

1-5-2. 観光客数の推移

主要施設の観光客数の推移をみると、コロナ禍以降、吉備路自転車道沿線に立地する備中国分寺では増加・横ばい傾向にあり、総社・宝福寺は増加傾向にあります。

図 観光客数の推移



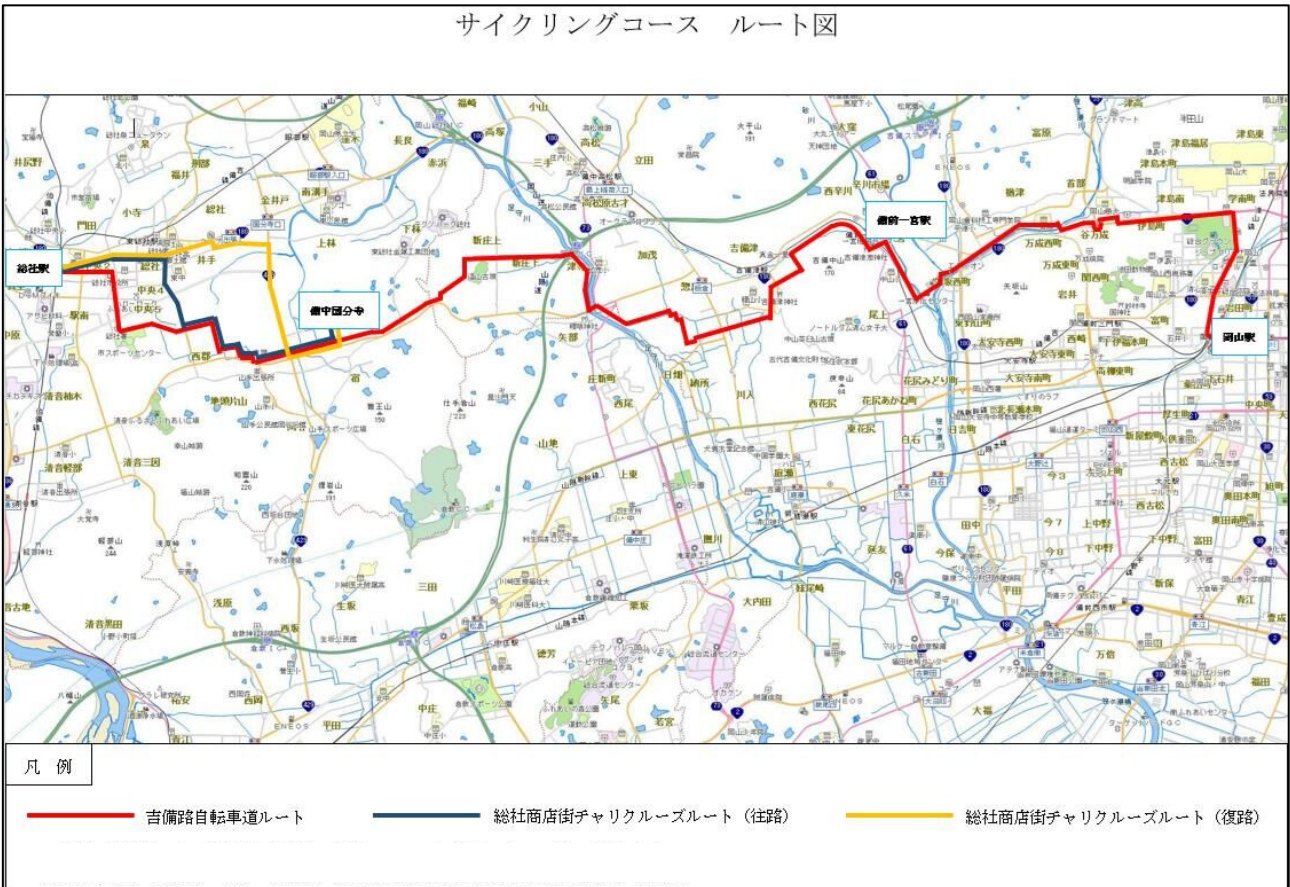
出典：岡山県観光客動態調査

1-5-3. サイクルロードの指定状況

総社市と岡山市を結ぶ全長約 21km の自転車・歩行者専用の道路が県指定の本格的なサイクリングロードとして指定されており、このうち、総社駅から備前一宮駅まで(約 15km)の区間が「吉備路自転車道」です。春は、れんげや菜の花など四季折々の自然が溢れ、のどかな風景を楽しめます。

また、備中国分寺や作山古墳など数多く残る古墳や史跡を巡り、吉備の国のロマンあふれる歴史に触れることができます。

あわせて、吉備路自転車道の支線として総社商店街通り付近を通る「総社商店街チャリクルーズルート」が岡山県に認定されております。



出典：総社市公式観光 WEB サイト

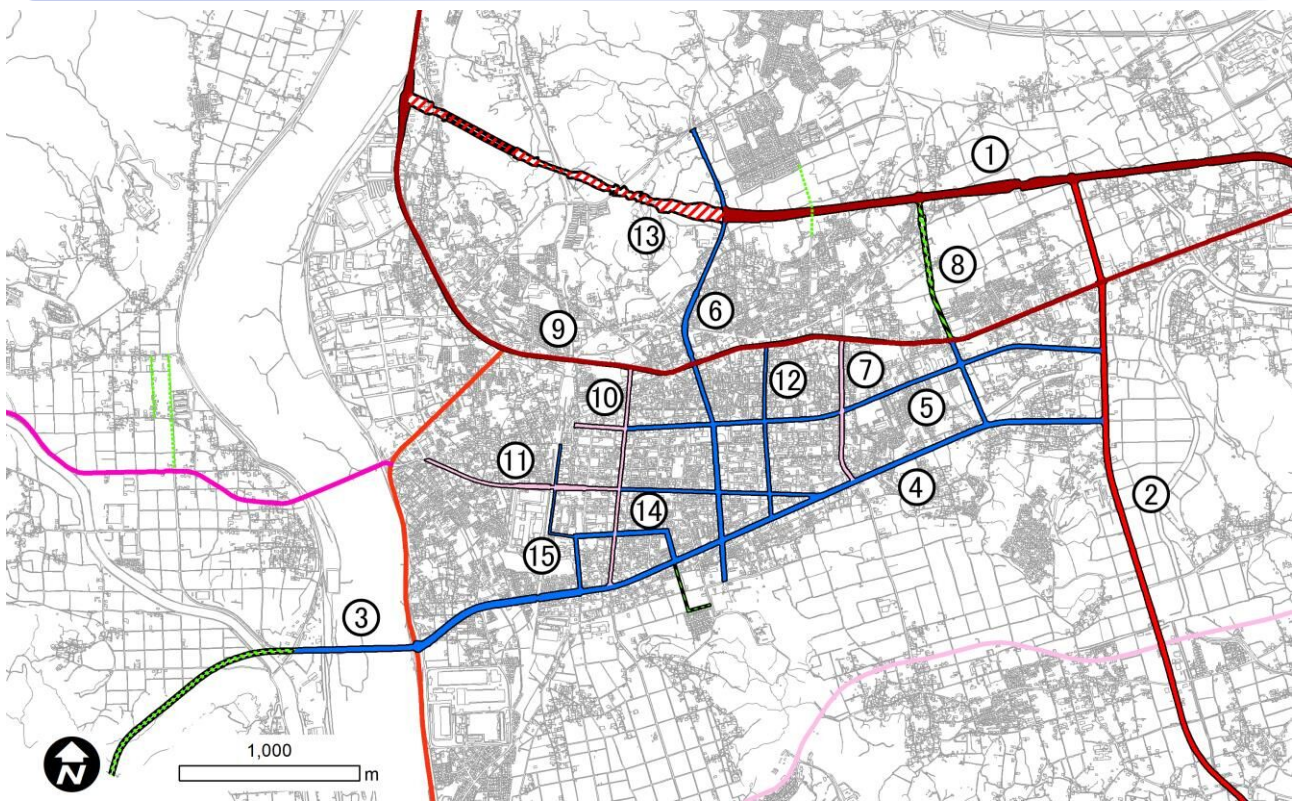
2. 道路特性

2-1. 市道ネットワーク

本市が将来にわたって活力ある地域として発展していくためには、道路ネットワークの向上は必要不可欠です。

本市の道路ネットワークをみると、整備が進んでいる東西方向の路線に比べ、市内東部を中心に南北方向の路線は脆弱です。現在、国道 180 号総社・一宮バイパスと東総社駅前泉本線の整備も進められており、将来の交通状況の変化を見据えた南北路線（刑部三須線、(仮称)神在秦本線等）を強化していくことが重要となっています。

図 総社市の道路ネットワーク



凡例	
■	国道（国管理）
▨	国道（国管理・未整備）
■	国道（県管理）
■	主要県道
■	一般県道
■	市道（改良済）
▨	未整備

記号	路線番号	路線名
①	3・2・2	総社国道180号線
②	3・3・28	倉敷山手総社線
③	3・3・29	総社真備船穂線
④	3・3・総301	東総社中原線
⑤	3・4・総401	総社駅前線
⑥	3・4・総402	総社中央線
⑦	3・4・総403	宮本町山手線
⑧	3・4・総404	刑部三須線
⑨	3・5・総501	総社本線
⑩	3・5・総502	門田三輪線
⑪	3・5・総503	常盤橋井手線
⑫	3・5・総504	元町井手線
⑬	3・5・総505	門田小寺線
⑭	3・5・総506	駅前幹線1号線
⑮	8・7・総701	駅前運動公園線

出典：国土数値情報[都市計画決定情報データ]（令和4年），[緊急輸送道路]（令和6年），岡山県の都市計画（令和7年）